

カンボジア Overseas Community Project (OCP)

地域での食料寄付活動 3/20-26

米 10kg、砂糖、塩、ニンニク、醤油、魚醤、インスタント麺。これらを一つの袋にパッキングして複数の村を回って寄付します。今年は 1,000 袋を用意。費用はテマセク・ポリテクニクの学生がシンガポールで寄付金を募っています。このパッキング作業は OCP で一番ハードな作業。夜遅くまで頑張りました。以下、この経験を街頭募金担当の「あんり」こと竹市さんが綴ってくれました。

本日のブログ担当 3 年建築学科の竹市です。ただいまドネーションに向けてパッキング作業を行っています。ドネーションでは、主に衣類と食品を届けます。米や砂糖といった食品は、大袋で私たちの元に届けられるので、それらをばらして小分けにし、一人一人に渡せるように 1 つの袋にまとめます。この作業をパッキングといいます。2 回行いましたが、合計 700 個ほどの袋をつくりました。

パッキングは、ラン、ガーリック、シュガー、ヌードルといった役割に分かれて行います。それぞれのグループの名前の食べ物を用意していくのです。例えば、ランはランニングのランで、米の入った袋を持って移動を繰り返します。ガーリックはニンニクの皮を剥きます。私はシュガー担当になりました。シュガーの仕事についてご紹介しますと、20kg ほどの砂糖を 500g の小分けにしていきます。コップで大袋からすくい出すので、手が砂糖コーティングされて美味しそうになります。



作業する時間帯が 21 時くらいということもあり、段々と頭が動かなくなってきて簡単な英語も出てこないことが多々あります。ですが、そこで一つ発見がありました。私はパッキングの作業では、協力し合うことと、短い時間でたくさん作るために効率的な動きが求められると思っているのですが、そういった作業では、言葉はそこまで必要ないな、と感じるのです。もちろん、言葉があることですんなりと意思疎通ができますが、同じ心掛けて動いていると、相手が何を次にしたいかがだいたい分かってくる気がしています。パッキング作業によって、言葉がなくとも親しくなれたシンガポールの人が多く、嬉しい限りです。

ですがパッキング中、1 度だけ言葉の大切さ、難しさを強く感じるがありました。ホームステイ先のオーナー一家族に借りていたコップを返しに行った時のことです。現地の方々なので、英語ではなくクメール語でありがとうという意味の「オークン」を伝えようとしたのですが、中々伝わらず 4 回目くらいでやっと伝えることができました。Thank you と返されました。切なかったです。

クメール語にも挑戦しつつ、これからも一人一人の手に届けるために心を込めてパッキングしていきます!
読んでいただきありがとうございました。

